

# 復員廳第二復員局公報

第五二號

昭和二十一年十一月一日(金)  
第二復員局文書課

○令 達

復二第三六五號

復員廳第二復員局定員表中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年十月三十一日

復員廳 總裁

交書課ノ項中囑託ノ欄「二三」ヲ「二四」ニ、原員、傭人ノ欄「二七〇」ヲ「二七九」ニ改メル。

經理部會計課ノ項中囑託ノ欄「八」ヲ「七」ニ、原員、傭人ノ欄「二八〇」ヲ「二七二」ニ改メル。

(參照 十月二十一日第二復員局公報)

復二第三六六號

復員廳分課規程中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年十一月一日

復員廳 總裁

別紙第二ノ第二十八條表中大阪地方復員局ノ項掃海部ノ欄「神戸」ヲ「阪神」ニ改メル。

(參照 六月二十日第二復員局公報)  
七月三日第二復員局公報

復二第三六七號

復員廳地方復員局定員表中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年十一月一日

復員廳 總裁

大阪地方復員局ノ部中「神戸掃海部」ヲ「阪神掃海部」ニ改メル。

(參照 十月二十一日第二復員局公報)

復二第三六八號

昭和二十年內令第七號中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年十一月一日

復員廳 總裁

「神戸掃海部」ヲ「阪神掃海部」ニ改メル。

(參照 昭和元年十月六日第二復員省公報第一〇號)

復二第三六九號

本年十一月一日現在神戸掃海部ノ職員デアル者ハ別ニ辭令ソ用ヒナイテ阪神掃海部ノ相當職員トナツタモノト心得ヘヨ。

昭和二十一年十一月一日

復員廳 總裁

復員廳第二復員局公報 第五二號 昭和二十一年十一月一日

一三二

復二第三七〇號  
當分ノ間次ノヤウニ人員ヲ臨時増置スル。

昭和二十一年十一月一日

復員廳總裁

横須賀地方復員局總務部 復員事務官 三級 職員、備人	五人 十人
奥地方復員局總務部 復員事務官 三級 職員、備人	五人 十人
佐世保地方復員局總務部 復員事務官 三級 職員、備人	十五人 三十人
舞鶴地方復員局總務部 復員事務官 三級 職員、備人	四人 九人
大阪地方復員局總務部 復員事務官 三級 職員、備人	一人 二人
大湊地方復員局總務部 復員事務官 三級 職員、備人	二人 四人 六人

本號ノ人員ハ行動不能艦船、沈没艦艇調査、保守管理ニ充テ  
ル。

〇雜款

〇郵便物發送先

特別輸送艦 箕 面 佐世保市佐世保郵便局氣付  
同 雄 竹 佐世保市福石町  
同 柿 福岡市海岸通り二丁目  
博多運航部氣付  
同 輪第十六號 横須賀市浦賀町  
横須賀運航部氣付

〇事務所

十月二十二日移轉 大分地方世話部第二復員課  
大分市大字勢家一〇二七番地  
(電話 五七番)

〇轉官

十月五日 地方事務官三轉官 復員事務官 齋藤 首  
九月十五日 同 海軍書記 相川重太郎

# 復員廳第二復員局公報

第五三號

昭和二十一年十一月二日(土)  
第二復員局文書課

## ○令 達

復二第三七一號

元第二十號輸送艦

右ノ特別輸送艦トシテ與地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十一年十一月一日

復員廳總裁

## ○通 牒

二復員人扶第二五號ノ三八三

昭和二十一年十月三十一日

復員廳第二復員局人事部長

各地方復員局人事部長殿

戦死者等ノ死亡報告ニ關スル件通牒

戸籍法ノ一部改正ニ伴フ首題ノ件、別紙寫ノ通り、司法省民事局ニオイテ決定サレタカラ、「大東亞戰爭中戦歿者等身上取扱規則」第十二條所定ノ死亡報告ハ、從來通りノ要領ニヨツテ處理サレタイ。

(別紙)

司法省民事局第七〇九號

復員廳第二復員局公報 第五三號 昭和二十一年十一月二日

昭和二十一年十月二十六日

各地方裁判所長殿

司法省民事局長 奥野健

戦死者等ノ死亡報告ニ關スル件

客月九日、勅令第四百二十一號ヲ以テ、戸籍法ノ一部ヲ改正サレタノデ、同令施行後ニスル戸籍法第百十九條ノ死亡報告ニツイテモ、同法第百十六條第二項ノ事項ヲ記載スルコトハ勿論デアルガ、元軍人軍屬ノ戦死等ノ死亡報告ニツイテハ、コノタビ内閣統計局ソノ他關係廳トモ協議シタ結果、今後ハ、昭和二十一年九月三十日以前ニ發生シタ戦死、戦死確認者等デ地方世話部、復員廳第二復員局人事部、地方復員局人事部等ガ死亡報告ニ限リ、コノ改正規程ニ拘ラズ、從來通りノ死亡報告ニテ差支ナイコトニ決定シタカラ、コレヲ御了知ノ上、貴管下ノ各區裁判所及ビ市區町村ニ對シ、コレガ通達方ヲ取計ハレルヤツ、コノ旨通牒スル。

二復員主第七號ノ二二三

昭和二十一年十月三十一日

復員廳第二復員局經理部

關係各廳御中

一三三

朝鮮人勞務者等ニ對スル未拂金ツノ他ニ關スル件通知  
首題ノ件ニ關シニ後經主第七號ノ八八(八月十二日公報參照)ヲ以テ通知シタガ未拂金等ノ供託ニ關シ厚生省勞政局給與課長ヨリ別紙ノ通り通知ガアツタカラ了知セラレタイ。

(別紙)

昭和二十一年十月十四日

厚生省勞政局給與課長

關係官廳御中  
各統制團體

朝鮮人勞務者等ニ對スル未拂金ツノ他ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテ本日別紙寫ノ通り地方長官及ビ地方商工局長宛通知シタカラ了知セラレタイ。

(勞發第五七二號)

昭和二十一年十月十二日

厚生省勞政局長

地方長官殿

朝鮮人勞務者等ニ對スル未拂金ツノ他ニ關スル件

朝鮮人勞務者等ノ給與等ニ關シテハ兼ニ本年六月二十一日厚生省發勞第三六號「朝鮮人、臺灣人、中國人勞務者ノ給與等ニ關スル件」トシテ次官通牒サレタガ本件ニ關シ事業主ガコレヲノ

勞務者ニ對シテ支拂フベキ貸金退職金又ハコレヲノ勞務者ノ爲ニ保管スル積立金、貯金、有價證券等ヲ受取人ノ居所不明、通信不能等ノ事情ニヨリ現在尙未拂トナリ又ハ引渡不能トナツテキル場合ハ今後左ノ方法ヲ出來ル丈速カニ處理スルコトトシ、關係事業主ヲ指導サレ度イ。

尙會社經理應急措置法ニヨル特別經理會社ニ於テハ本件ニ關スル未拂金、預リ金等ハ同法第十四條第一項但書ニ依リ舊勘定ヨリ優先辨濟ヲ爲シ又ハ同條第二項ニ依リ新勘定ヨリ立替拂ヲ爲シ得ルモノニ付至急本通牒ニヨリ供託ノ措置ヲトルヨウ指導サレ度イ。

追ツテ本件供託事務ニツイテハ、司法省民事局長ト打合セ濟ニツキ念ノ爲申添ヘル。

記

一 供託ノ要領ハ別紙「朝鮮人勞務者等ニ對スル未拂金供託要領」ニヨルコト。

二 事業主ハ供託ヲ完了シタトキハ、供託書ノ番號、供託年月日、供託所名、受取人ノ氏名、本籍地、雇傭及解雇ノ時期、解雇ノ事由、未拂金ノ内譯等ヲ記載シタ報告書三部ヲ地方長官ニ提出スルコト。

地方長官ハ關係者ノ要求アル場合ハ、前項ノ報告書ヲ閱覽サセ、當該關係者カラ報告書ノ記載事項ニツイテ異議ノ申出ガアツタ場合ハ實情ヲ調査シ、或ハ關係者ノ意見ヲ聽取シテ未拂金ノ公正化ヲ計ルコト。

三 今回供託スルノハ、金銭及ビ有價證券ニ限ルコトトシ、勞務者ノ預貯金ヲ通帳ノママ交付スベキモノニツイテハ別途通牒ノ豫定デアルガ、事業主ハ保管中ノ預貯金通帳ニツキ受取人ノ氏名、預金ノ種類及ビ貯金額ヲ記載シテ報告書三部ヲ地方長官ニ提出スルコト。

四 前記厚生次官通牒第五號ノ趣旨ニヨリ適法ナ委任ヲ受ケタ者以外ノ第三者ニ未拂金、保管金等ヲ引渡スノハ適當デナイノデ、今後本通牒ノ趣旨ニヨリ供託ノ方法ヲ取ルベキデアラガ、既ニ之等ノ金額ヤ交渉ノ結果新ニ支給スルコトトシタ金額ヲ、朝鮮人聯盟ソノ他第三者ニ引渡シタモノガアル場合ハ、ソノ引渡先ノ名稱、責任者名、引渡年月日、引渡金額及ビ引渡金額ノ算出内譯明細ヲ記載シテ報告書二部ヲ地方長官ニ提出スルコト。

追ツテ本件ニ關シ十一月十日現在デ別紙様式ニ依ル一覽表ヲ作成シ報告サレタイ。尙ソノ際(二)、(三)、(四)ニヨル事業主ノ報告書ノ寫ニ部宛ヲ一括シテ添付サレタイ。

(別紙)

- (一) 朝鮮人勞務者等ニ對スル未拂金等ノ供託要領  
既ニ履行期ノ到來シテキル未拂金及ビ未交付ノ有價證券ハ債務履行地ノ供託局ニ供託スルコト。
- (二) 預貯金ヲ通帳ノママ交付スベキ契約ノモノ及ビ拂戻不能ノモノニツイテハ、目下司法省ト打合せ中ニツキ追ツテ別途通

牒スルコトトスル。

(三) 供託ハ左ノ要領ニ依ルコト。

(1) 債權者ガ多數アルトキハ、ナルベク便宜一括シテ供託スルコト。

コノ場合

(イ) 金銭供託ニツイテハ供託書ニ合計金額ノミヲ記載シ「金額、受取人氏名ハ別紙内譯ノ如シ」ト附記シ、指定受取人欄モ亦「別紙内譯人名」ト記シタ上、各受取人別ニ金額氏名ヲ列記シテ内譯書ヲ添付シテ供託局ニ提出スルコト。

(ロ) 有價證券供託ニツイテハ(イ)ニ準ジ、供託書ニハ有價證券ノ銘柄、額面總額及ビ合計枚數ヲ記載シ、二種類以上ノ場合ハ銘柄毎ニ額面總額、合計枚數ヲ記載、内譯書ニハ各券面額、記號、番號、枚數及ビ利札ニ關スル事項(例ヘバ「何年何月何日以降利札付」)ヲ記載スルコト。

(2) 債權者ヲ確知スルコトガ出來ナイ場合ニハ供託書ニ記載スベキ供託ノ原因タル事實欄ニ例ヘバ「有金員(又ハ有價證券)ハ債務者タル供託者ヨリ別紙内譯書記載ノ債權者ニ支拂フベキ給料及ビ諸手當金(又ハ交付スベキ有價證券)ナル處債權者ノ居所不明ノ爲交付スルコト能ハザルニツキ(又ハ昭和年月日ノ戰災ニヨリ帳簿書類等焼失ノ爲債權者ヲ確知スルコト能ハザルニツキ)辨濟ノ



復員廳第二復員局公報

第五四號

昭和二十一年十一月五日(火)  
第二復員局文書課

○通 牒

二復經契第三〇〇號ノ四

昭和二十一年十月一日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長  
特別輸送艦艇長 殿

日用品等配給品種標準改正ニ關スル件通知

二復經契第三〇一號ノ一〇通知ノ首題標準中「日本酒、ウイスキー、葡萄酒」ニ關スル「外地殘留員」引揚援護局收容中ノ軍官民「國立病院收容中ノ患者」ノ欄ヲ削除ス。

二復補第一〇七六號

昭和二十一年十月三十一日

復員廳第二復員局補給部長

關係各廳長 殿

糧食品給與ニ關スル令達ノ件通知

首題ノ件左ノ通發電セラレタカラ了知相成リタイ。

第二番電 (昭和二十一年十月二十九日發電濟)

發 第二復員局長

宛 部内一般

復員廳第二復員局公報 第五四號 昭和二十一年十一月五日

糧食品給與ニ關スル件通牒

官房需第〇七一八〇番電中艦船乘組員ニ對スル米麥一割減給ノ件ハ來十一月一日ヨリ之ヲ廢止ス。  
尙豫備員ニ對スル二割減給ハ其ノ儘トス。

二復人第七號ノ二七

昭和二十一年十一月一日

復員廳第二復員局人事部長  
復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長 殿

内地歸還軍屬ノ給與ノ取扱ニ關スル件通牒

外地又ハ外國ヨリ内地ニ歸還シタ軍屬(海軍文官、徴用員、傭託員等)ニシテ昭和二十一年七月一日以後解員サレタ者又ハ解員サレルベキ者ノ給與ノ取扱ニツイテハ左ニヨル。

一 他所屬ニ復歸スル者(轉官、轉雇等)

俸給(報酬、給料)ノ改定ハシナイ。

(註) 轉官ノ日(轉雇ノ日ノ前日)マデ従前ノ俸給等諸給與ヲ支給スル。

改定ハ復歸廳デ行フ。

二 他所屬ニ復歸セズ免官、解雇等トナル者

一三七

俸給(報酬、給料)ノ改定ハシナイ。

(註) 免官、解雇等ノ月ノ末日マデ従前ノ俸給等諸給與ヲ支給スル。

三 恩給ヲ受ケル條件ヲ具フル者

前號ニ該當スル者ノウチ、恩給ヲ受ケル條件ヲ具フル者ガ退官スル場合ニハ、昭和二十一年七月一日現在ノ俸給ヲ基礎トシ、本年九月十六日二復經主第七號ノ一〇七(九月三十日二復公報参照)ニヨリ、内地ニオケル第二復員部内各廳ニ勤務シテキル官吏ト概ネ同様ニ、ソノ俸給ヲ改定スル。  
ソノ改定ニ際シテハ、内地ニ勤務シテキル官吏ト同ジ給與ヲ受ケテキク者トミナシテ、第二復員局人事部長又ハ地方復員局人事部長ガ退官ノ日ヲ以テ新號俸ノ發令ノ手續ヲスル。

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

特別輸送艦 響

浦賀郵便局氣付

同 花

横須賀市浦賀町

同

横須賀運航部氣付

同

海第八一號 吳市下由手町吳運航部氣付

同

海第二〇五號 同

同

海第二〇七號 吳郵便局氣付

1306



物

製給

昭和三十二年十一月七日

# 復員廳第二復員局公報 第五五號

昭和二十一年十一月七日(木)  
第二復員局 文書課

○令 達

復二第三七六號

昭和二十一年復二第七八號名古屋上陸地連絡所ニ二級事務官一人及び雇員備人十人以内臨時増置ノ件ハコレヲ廢止スル。

昭和二十一年十一月六日

復員廳 總裁

(參照 六月二十六日第二復員局公報)

○通 牒

復二第三七九號

昭和二十一年十一月六日

復員廳第二復員局文書課長

各 廳 長 殿

恩給受給權調査ニ關スル件通牒

首題ニ關シ内閣官房總務課長カラ復員廳總裁官房長宛別紙ノ通牒ガアツタカラ勤務員中ノ受恩給者カラ申出ガアツタトキハ可然御取計願ヒタイ。

(別紙)

内閣閣乙第三八號

昭和二十一年十月十八日

復員廳總裁官房長殿

恩給受給權調査ニ關スル件

標記ノ件ニツイテ、別紙ノトホリ内閣恩給局長カラ申越ガアツタカラ然ルベク御取計ヒ願ヒタク命ニヨツテ通牒スル。

恩發第一二一號

昭和二十一年十月 日

内閣恩給局長 三橋 則雄 閣

内閣書記官長殿

恩給受給權調査ニ關スル件

本年九月三十日公布ノ勅令第四百四十八號(恩給法施行令)ノ一部改正ニヨリ、本年十月カラ、恩給法施行令第一條ノ二ニ規定シテキル、恩給受給權存否ノ調査ニ屬スル書類ヲ、提出サセルコトニナツタガ、同條第二項ノ規定ニヨツテ、官公署ノ證明アル書類ヲ、提出シ、裁定官廳ガ之ヲ承認シ、場合ニハ、前記ノ受給權調査書類ヲ提出スル必要ガナイコトニナツテキルカラ、若シ、貴廳ノ勤務者デ、右ノ承認ヲ希望スルモノガアル場合ニハ、別紙様式ニヨツテ承認申請書ヲ作成セシメ、證明セラレ度イ。

復員廳第二復員局公報 第五五號

昭和二十一年十一月七日

一三九

1307

(様式)

承認申請書

左記證明デ、昭和二十一年十月ニ提出スベキ恩給法施行令第一條ノ二第一項第一號ニ規定シテキル書類ニ代ヘ、御承認願ヒマ  
ス。

昭和 年 月 日

恩給權者 氏 名 國

内閣恩給局長 殿

證明

證書記號	官職名	受給者氏名	郵便局給	現住所

右者ハ、當廳ニ勤務シテ斗テ、恩給法第九條第一項第一號及ビ第三號ニ該當シナイ事ヲ證明スル。

昭和 年 月 日

所 屬 長 國

二復經主第七號ノ二二五

昭和二十一年十一月五日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長 殿

船舶運營會移管ノ氷川丸外十二隻ノ艦船乘員

特殊下船者ノ給與措置ノ件通牒

首題艦船乘員中船舶運營會(以下運營會下稱ス)ニ轉屬ノ決定

方後レタタメ、引續キ其ノ儘乘船シ所定ノ給與切替時期(昭和二十一年九月一日)但シ醫務關係者ハ昭和二十一年十月一日)經過後下船スル者(以下單ニ特殊下船者ト稱スル)ノ給與ハ、船舶運營會ト協議ノ結果左記ニヨルコトニ定メラレタカラ承知セラタイ。

記

- 一 當該艦船運營會ニ移管後ノ特殊下船者ノ給與ハ第二復員局ノ規定ニ基ク諸給與ヲ當該船長(運營會以下同ジ)カラ本人ニ對シ立替拂フスルモノトスル。
- 二 當該船長ハ特殊下船者退船ノ際給與通牒ニ代ル當該船舶ノ立替拂證明書(給與額ノ内容ノ詳記シアルモノ)ヲ交付シ本人所屬復員局所在地ノ運航部ニコレヲ提出セシメルモノトスル。
- 三 船長前項ノ立替拂證明書ヲ交付シタトキハソノ副本ヲ第二復員局經理部會計課及ビ運營會ニ夫々送付スルモノトスル。
- 四 特殊下船者ハ所屬復員局所在地運航部ニ轉勤セシメルモノトシ、當該運航部ニオイテハ解員又ハ服務ノ辭令ニヨリ給與ノ處理手續ヲナスモノトスル。但シ當該乘員デアツタ期間(退船ノ月ヲ含ム)ノ恒例諸給與ハ第二復員局經理部會計課ニテ處理スルモノトスル。
- 四 當該船長ニオイテ立替拂シタ諸給與ハ運營會ノ請求ニヨリ第二復員局經理部會計課ニオイテ處理スルモノトスル。

# 復員廳第二復員局公報

第五六號

昭和二十一年十一月十三日(水)  
第二復員局文書課

○通牒

復二第三八四號

昭和二十一年十一月十二日

復員廳第二復員局長

關係各廳長殿

無線電信通信日誌抄録ニ關スル件照會

首題ノ件ニツキ別紙昭和二十一年十月十九日附企第四六號ヲ以ツテ逡信省電波局長ヨリ照會ガアツタカラ了知サレタイ。ナホ日誌抄録ハ各施設ゴトニ第二復員局長ニ一部、施設地所轄逡信局長ニ二部ツツ送付サレタイ。

(別紙)

企第四六號

昭和二十一年十月十九日

逡信省電波局長

復員廳第二復員局長殿

無線電信通信日誌抄録ニツイテ

我國無線通信ノ確保發展ヲ圖リ、業務ノ改善・技術ノ向上ヲ促進シ、時代ニ即應スル無線通信施設ノ企畫ノ萬全ヲ期スルヲ

復員廳第二復員局公報 第五六號 昭和二十一年十一月十三日

メ、貴廳施設陸上固定無線通信施設ノ無線通信日誌抄録ノ提出ヲ來ル十月分ヨリ別紙様式ニ依リ改正實施ノコト、ナツタ。コレニツイテハ所轄逡信局長ヨリ施設毎ニ別途通牒スル筈デアラガ貴廳ニオイテモ左記御諒知ノ上、コレニ協力サレルヤウ關係無線電信ニ周知方特ニ御配意願ヒタイ。

尙別紙様式ノ事項中ニハ聯合軍總司令部ノ要請ニヨル各種調査ニ必要ナル資料トナルモノガ含マレテキルノデ提出洩レ等ノナイヤウニ併セテ御配意願ヒタイ。

記

一 別紙一號様式ニハ一月分通信日誌ヲ抄録シ、同二號様式ニハ、毎月第一及ビ第三水曜日(祝祭日ノ場合ハソノ翌日)(但シ來ル十月分ハ第四水曜日ノミトスル)ニオケル通信狀況ヲ調査記入ノ上、翌月三日迄ニ發送願ヒタイ。

二 本件日誌抄録ハ施設毎ニ各二部ヲ施設地所轄逡信局經由逡信大臣宛提出願ヒタイ。

三 別紙一號様式中、對手別通信成績概況欄ニハ、一般概況ノ外、ソノ月ヲ通ジテ通信ニ比較的大キナ影響ヲ及ボシタ事實ガアレバコレハ詳細ニ記載願ヒタイ。

(別紙添)

復二第三八二號

昭和二十一年十一月十二日

復員廳第二復員局文書課

關係各廳御中

徵章代金ノ件通牒

官房庶第九四號(四月十七日第二復員省公報)ニ依ル首題辨償代金ハ五則ニ定メラレタカラ承知アリタイ尙始末書ハ地方復員局デ適宜ノ様式ヲ定メ處理ノ上辨償金ノミ文書課長宛送ラレテ差支ヘナイ。

○雜款

○郵便物發送先

特別輸送艦	探	吳市下山手町吳運航部氣付
同	海第七九號	同
同	波	佐世保市福石町
同	春	佐世保運航部氣付
同	樺	同
同	葛	同
同	海第一〇六號	同
同	海第五五號	鹿兒島市六日町
同	巨	鹿兒島上陸地連絡所氣付
同	濟	岡山縣玉野市玉造船所氣付

○閉鎖

十月三十一日閉鎖 吳地方復員局補給部關門出張所

特別保管艦	海第二六號	東舞鶴郵便局氣付
同	柿	佐世保郵便局氣付
同	楨	佐世保運航部氣付
同	隱	佐世保市福石町
同	海第一六號	鹿兒島市住吉町
同	同	鹿兒島運航部氣付
同	初	佐世保運航部氣付
同	占	佐世保市福石町
同	波	佐世保運航部氣付
同	太	吳市吳郵便局氣付
同	守	岡山縣玉野市玉野郵便局氣付
同	櫻	佐世保運航部氣付
同	同	佐世保運航部氣付

○轉官

農林事務官ニ轉官	四月二十日	海軍技手	田中 隆夫
臺灣臺北州公立國民	四月十五日	海軍教員	越 定三
臺灣新竹州公立國民	同	同	播木 義雄
臺灣臺中州公立國民	同	同	星原 益雄
臺灣臺中州公立國民	同	海軍警部	河野日八郎次
臺灣新竹州公立國民	同	同	佐々木 魏
臺灣臺中州公立國民	同	同	富木 勉
臺灣臺北州公立國民	同	同	東 末次

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
高雄州警部ニ轉官	同	花連港廳警部ニ轉官	新竹州警部ニ轉官	臺北州警部ニ轉官	同	地方事務官ニ轉官	地方技官ニ轉官	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
井上良輔	村田榮	小野稔	室塚勝司	原田壽雄	井中正男	野林伍市	岸藤雄	和田正	谷垣喜内	山田順三	中村千秋	渡邊澤見	佐藤四郎	紺野與旨郎	池邊雄彦	堅山喜一郎	中村庄三	橋口榮	西尾經雄	立山三代吉	田代友一	大塚榮武	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
臺灣總督府技手ニ轉官	同	臺北帝國大學書記ニ轉官	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
塚田武文	須郷彌五郎	澁谷好之	吉田光重	杉本龜太郎	岩橋米次	植村清逸	島村普吉	岡田久吉	石川善三郎	原田市郎	小松一元	宮川松次郎	石栗雅男	松木勝夫	戶部健次郎	鳥澤正徳	木村多平	高橋凱	村瀬鐵之助	井上茂雄	松下榮次	有路定雄	同	同	

復員廳第二復員局公報 第五六號 昭和二十一年十一月十三日

一四三

1311



(復「第三八四號別紙」號樣式)

(昭和二十一年十一月十三日復員廳第三復員局公報)

無線電信通信日誌抄録 ( 年 月分)

1313

施設者		呼出符號		機器装置場所	送信所 受信所
無線通信士 資格等級 氏名	(十月分ハ全員・以後ハ異動ノモノ)				

(1) 一ヶ月間取扱通數・一通平均字數及ビ一日平均

對手別	送信	受信	中継信	放送	計	一通平均字數	一日平均 通信時間
總計							

(2) 對手別通信成績概況

(3) 無線電信機器ノ保守狀況

(4) 無線電信業務及ビ技術改善上參考トナルベキ事項

無線通信状況表

月 日 第 水曜日 (祝祭日ノ場合ハソノ翌日)

施設者

自局	對手	時 間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
(呼出波符號)	地名呼出波符號	通信時間																									
		感 度																									
		混 信																									
		送 信 通 數																									
		受 信 通 數																									
(呼出波符號)	地名呼出波符號	通信時間																									
		感 度																									
		混 信																									
		送 信 通 數																									
		受 信 通 數																									
(呼出波符號)	地名呼出波符號	通信時間																									
		感 度																									
		混 信																									
		送 信 通 數																									
		受 信 通 數																									
(呼出波符號)	地名呼出波符號	通信時間																									
		感 度																									
		混 信																									
		送 信 通 數																									
		受 信 通 數																									

- 註 1, 通信時間欄ニハ對手トノ交信時間ヲ横線ヲ以テ示スコト。  
 2, 感度ハQ S A 1—5ノ數字ヲ以テ表スコト。  
 3, 時間別混信ハ下表ニヨル相當數字ヲ以テ示スコト。

1	混信ナシ	2	稍混信アリ	3	混信アルモ通信ニ支障ナシ	4	混信強ク辛ジテ受信シ得	5	混信強ク受信シ得ズ
---	------	---	-------	---	--------------	---	-------------	---	-----------

- 4, 本表ハ對手別 (通信系列) ニ調査記入ノコト (上表例ハ對手四局所ノ場合ヲ示ス)  
 5, 本調査表ハ毎月第一及ビ第三水曜日ニオケル通信状況ヲ記入各二部ヲ提出スルモノトス。



# 復員廳第二復員局公報

第五七號

昭和二十一年十一月十五日(金)  
第二復員局文書課

○通 牒

復二第三八六號

昭和二十一年十一月十三日

復員廳第二復員局長

各地方復員局長  
各上陸地連絡所長

外地ヨリ歸還シタ軍屬ノ解員日附ニ關スル件  
申進

外地ヨリ歸還シタ海軍文官、囑託員ツノ他軍屬ノ解員(轉官ヲ含ム)ハ從來内地歸着ノ翌月十五日附(明治三十八年勅令第四十三號ニヨル定員外配屬者ハ歸着ノ月末附)デ行ツテモタガ、本年十二月一日以後ノ歸還者ニツイテハ一律ニ左記ニヨルコトニナツタカラ遺漏ナイヨウ取計ハレタイ。

記

- 一 本年十二月一日ヨリ同十四日マデノ間ニ歸還スルモノニツイテハ同月十五日附解員。
- 二 本年十二月十五日以降歸還スルモノニツイテハ上陸ノ翌日附解員。

二復員主第二號ノ一一七

昭和二十一年十一月十二日

復員廳第二復員局公報 第五七號

昭和二十一年十一月十五日

一四五

復員廳第二復員局經理部長

支 出  
各資金前渡官

資材購入費並ニ修理工事費ノ一部自由支拂ニ關スル件通牒

復員輸送、掃海等緊急ヲ要スル業務遂行ニ充當サレル資材購入費及ビ修理工事費(左記項目ニ該當ノモノ)ノ支拂ニツイテハ、他ノ規定ニ拘ラズ本經理部ノ統制ノ下ニツク一部ヲ自由支拂トシテ差支ナイコトニ定メラレタカラ、今後右ノ經費ノ支拂ニツイテハ左記ニヨリ處理サレタイ。

記

一 支拂ノ一部ヲ自由支拂トナシ得ル經費ノ項目

- (イ) 備品消耗品費
- (ロ) 營繕費
- (ハ) 衣糧費
- (ニ) 港用品費
- (ホ) 艦艇需品費
- (ヘ) 艦艇修理費

二 自由支拂シナス場合ノ手續

豫メ支拂ノ目的、支拂金額(封鎖支拂及ビ自由支拂ノ區分内譯ヲ示スコト)及ビ自由支拂ヲ要スル事由ヲ具シ、本經理部



復員廳第二復員局公報 第五七號 昭和二十一年十一月十五日

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
齋藤	渡部	早矢仕	市川	北村	平間	佐藤	鈴木	清水	吉原	志貴	中村	野口	天田	五十嵐	大屋	金子	中森	中谷	金子	長田	野口	上野	
二郎	晃雄	一巳	潔	道雄	彰吾	勝彌	真衛	弘	忠	唯男	久仁男	充雄	耕	與作	順士	行雄	俊吉	嘉善	浩藏	榮吉	一	良夫	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
葛原	宮本	後藤	阿江	黒崎	安松	土田	破戸	池田	周藤	菅井	五十嵐	鳥越	石川	越田	星野	成瀬	関	山崎	村山	岡本	有光	金丸	
熊喜	修三	留吉	勉	幸次郎	裂生	亮藏	胸一	二郎	春彦	侃	泰明	山夫	直	喜知郎	徳四郎	榮一	清	山夫	和夫	茂	善四郎	寅雄	

一四七

同	地方技官ニ轉官	同	細溪 勝次
同	同	海軍技手	小出 博一
同	同	同	瀬野 豊司
同	同	同	熊倉 房雄
同	同	同	岡田 敏
同	同	同	中澤 窈
同	通信技官ニ轉官	同	橋本與太郎
同	商工技官ニ轉官	同	牧田 忠雄
同	農林技官ニ轉官	同	小澤 米吉
同	地方事務官ニ轉官	海軍技師	齋藤 正次
同	地方技官ニ轉官	同	正木十二郎
同	同	海軍技手	久永 茂
同	同	同	篠崎 正文
同	同	同	橋本 喬一
同	農林技官ニ轉官	同	大家 優
同	地方教官ニ轉官	海軍教員	乾 光貞
同	地方事務官ニ轉官	海軍書記	栗山 政治
七月十六日	同	同	森 貞夫
七月三十一日	同	海軍警部	牧野 時男
九月十五日	同	海軍司政官	廣橋 任
同	同	同	大島 益太
同	農林技官ニ轉官	海軍技手	牧田 忠雄
同	同	復員技官	薦田 快夫
十月十四日	地方技官ニ轉官		

○失官

海軍技師 [ ] ハ業務上横領私文書偽造行使罪ニ因リ昭和二十年十二月三十日懲役二年ヲ、海軍書記 [ ] ハ戰時收賄罪ニ因リ昭和二十年九月三日懲役二年ヲ孰モ言ヒ渡ツレ失官トナツタ。

復員廳第二復員局公報

第五八號

昭和二十一年十一月十八日(月)

第二復員局文書課

○通 牒

復二第三九四號

昭和二十一年十一月十八日

復員廳總裁官房長

各 廳 長 殿

御寫眞下賜ニ關スル件通知

首題ノ件別紙ノヤウニ内閣官房總務課長ヨリ通牒ガアツタカラ了知サレタキ。ナホ復員廳關係官衙ニオイテハ御寫眞ノ下賜ハ願出デナイ豫定デアアル。

(別紙)

内閣官房第三八號

昭和二十一年十一月四日

内閣官房總務課長

復員廳總裁官房長殿

天皇 皇后兩陛下ノ御寫眞下賜範圍ニ關シテ、別紙ノ通り宮内次官ヨリ申越ガアツタカラ、命ニヨツテ通牒スル。

宮内大臣 官房發第一七一號

昭和二十一年十一月一日

復員廳第二復員局公報

第五八號

昭和二十一年十一月十八日

内閣書記官長殿

宮内次官 加藤 進

天皇 皇后兩陛下ノ御寫眞下賜範圍ニ關シテ般別紙ノ通定メラレ候ニ付テハ一般ニ周知方御取計相成度候

天皇 皇后兩陛下御寫眞下賜範圍

一、官衙學校等ノ團體ヘ下賜ノ範圍。

學校。

都道府縣廳。

(ハ)(ロ)(イ)

官衙、都道府縣會、市會、商工會議所、都道府縣立少年教護院、宮内大臣又ハ主務大臣ヨリ選奨セラレタル社會事業團體等、一定水準以上ノ會社工場、其他特ニ詮議セラレタル諸公衙團體。

二、個人ヘ下賜ノ範圍。

(ニ)(ハ)(ロ)(イ) 一級官待遇以上ノ宮中席次ツ有スル者。

文化勳章ヲ授與セラレタル者。

教派、宗派及宗團ノ主管者。

都道府縣會議長、市長、市會議長、商工會議所會頭、褒章受領者、宮内大臣又ハ主務大臣ヨリ選奨セラレタル社會事業其他功勞者、多年勤続ノ町村長、其他特ニ詮議セラレ

復員廳第二復員局公報 第五八號 昭和二十一年十一月十八日

一五〇

タル者。

皇太后陛下皇太子殿下ノ御寫眞下賜範圍モ右ニ準ス。

追テ御寫眞ノ下賜ヲ希望スル向ハ主務官廳ヲ經由シテ宮内省

ニ願書ヲ提出スルコト。

但個人ニシテ特別詮議以外ノ有資格者ハ直接宮内大臣宛願出  
ツルコト。

復二第三八九號

昭和二十一年十一月十五日

復員廳第二復員局長

關係各廳長殿

貯蓄増強ニ關スル件通牒

今般首題ニ關シ内閣大乙第二二號別紙ノヤウニ通牒ガアツ  
ク。部内勤務者ハ特ニ率先貯蓄増強ニ協力スルヤウ指導サレタ  
イ。

(別紙)

内閣大乙第二二號

昭和二十一年十月二十二日

内閣官房總務課長

復員廳總裁官房長殿

貯蓄増強ニ關スル件

標記ノ件ニツイテ、別紙ノトホリ大藏次官カラ申越ガアツタカ

ラ、然ルベク御配慮願ヒタク、命ニヨツテ通牒スル。

銀秘第一五、三、四八號

昭和二十一年十月十四日

大藏次官 山田 義 見 團

内閣書記官長殿

貯蓄増強ニ關スル件

今般政府ニ於テハ浮動並ビニ潜在購買力ノ吸收ノタメニ、別紙  
ノ通り「貯蓄増強方針ニ關スル件」ヲ決定シタ次第デアアルガ、  
本施策ヲシテ、直ニ所期ノ目的ヲ達成セシムルタメニハ、各般  
ノ綜合施策ガ一致シテ、初メテソノ成果ガ得ラルベキモノデア  
ル。

ヨツテ當省ニ於テハ、近ク「貯蓄増強方策」ヲ策定シ、速カニ  
之ガ實現ニ邁進セントスルモノデアアルガ、貴省ニ於カレテモ、  
此ノ際特ニ全面的ナ御協力ヲ賜ハリ度命ニヨリ依頼スル。

尙來ル十一月、二月ヲ期シテ復興貯蓄増強運動ヲ強力ニ展開ス  
ル豫定デアアルカラ、至急貴管下關係方面へ御連絡ノ上協力方  
ヲ煩ハシタイ。

貯蓄増強ニ關スル件

(昭和二十一年十月十一日閣議決定)

速ヤカニ經濟秩序ヲ安定シ、新日本經濟ヲ建設スベキハ、現  
下喫緊ノ要務デアアルガ、コレガタメニハ通貨ノ不安ヲ一掃シ、  
ソノ安定ヲ圖ルコトヲ絕對ニ必要トスル。然ルニ最近ニオケル

經濟情勢ヲ見ルニ、物價ハ稍安定セルニカ、ハラズ、通貨増加ノ趨勢ハ、猶依然トシテ止ムトコロヲ知ラズ、カ、ル通貨ノ異常ナル膨脹ハソノコト自體、或ハ通貨ニ對スル信認ニ對シ深刻ナル影響ヲ及ボス懸念ナシトシナイ。逆ニ物價方比較的安定ノ方向ヲ辿リツ、アル現在ノ狀況ニオイテハ、コノ際、購買力ノ吸收ノ方途ヲ講ジ通貨ノ還流ヲ圖リ、以ツテソノ信認ヲ回復スルコトハ財界ヲ急速ニ安定セシメ、經濟復興ノ基礎ヲ確立スル上ニ最モ喫緊ノ要務ト認メラレド。

ヨツテ、恰モ、戰時補償ノ打切並ニコレニ伴フ一聯ノ諸施策ノ實施セラレ、我國經濟方新發足セントシ、且ツ、食糧事情ノ緩和ニ伴ヒ、人心漸ク落着ク示サントスル秋ニ際シ、特ニ浮動並ニ潛在購買力ノ吸收ノタメ、新ニ、貯蓄増強ニ、全力ヲ傾注シタイト思フ。

一、國土復興、新日本經濟建設ノタメニハ、貯蓄ノ絕對ニ必要ナル所以ヲ國民方理解納得シ、進ンデ貯蓄スルガ如キ空闊氣ノ醸成ヲ圖ルタメ民主的ナ貯蓄運動ノ展開ヲ圖ルコト。

二、金融機關ノ自主積極的ナ資金吸收活動ヲ促進スルコト。

備考

一、運動ノ成果ヲ勘案シ、適當ナル機會ニナルベク速ヤカニ第一封鎖預金等ノ一部又ハ全部ノ解除ヲ考慮スルコト。

復員廳第二復員局公報 第五八號 昭和二十一年十一月十八日

		○雜 款	
○郵便物發送先		雪 風 佐世保郵便局氣付	
特別輸送艦		海第一九二號 同	
○轉官			
三月十日	裁判所書記ニ轉官	海軍書記	村松 新
四月三日	農林事務官ニ轉官	海軍技手	吉越 大八
同	地方事務官ニ轉官	海軍書記	須藤 常正
四月十四日	地方事務官ニ轉官	海軍技手	田中 勳
四月十五日	地方事務官ニ轉官	海軍書記	村上 集
同	同	同	本郷 正道
同	同	同	小平 米生
同	同	同	高島 正威
同	同	同	宇田 孝行
同	同	同	野田 士郎
同	遞信事務官ニ轉官	海軍司政官	中村 一男
同	地方技官ニ轉官	海軍技師	中村 一男
同	地方事務官ニ轉官	海軍書記	楡田 繁男
五月十五日	同	同	戸井田 浩
同	同	同	阿多石市二
同	同	同	山田 周
同	地方技官ニ轉官	海軍技手	河村 正巳
同	地方事務官ニ轉官	海軍書記	平野 太一







# 復員廳第二復員局公報

第五九號

昭和二十一年十一月二十日(水)

第二復員局文書課

## ○令 達

復第三九七號

元軍艦 葛 城

右ノ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十一年十一月二十日

郵 復員廳總裁

## ○通 牒

二復經主第七號ノ一二九

昭和二十一年十一月十八日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長 殿

歸郷旅費支給等ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ左ノ通發電セラレタカラ承知サレタイ。

第一六番電 (昭和二十一年九月四日發電濟)

發 經理部長

宛 各地方復員局經理部長

歸郷旅費支給ノ件

復員廳第二復員局公報 第五九號

昭和二十一年十一月二十日

一五五

艦船乘員(豫備員ヲ除ク)ニシテ任務終了ノ爲艦船ヨリ退職シタル場合(運営會及ビ厚生省ニ引繼ガレル場合ヲ除ク)ハ海軍内國旅費規則第六十一條第一項第四號ニ準ジ鐵道賃(三等)ノミ支給スルコトニ定メラル。

第三一番電 (昭和二十一年九月九日發電濟)

發 經理部長

宛 各地方復員局經理部長、同 運航部長、各艦船

艦船乘員解員者ノ取扱者ニ關スル件

艦船乘員任務終了ニヨリ退職スルトキハ現ニ貸與中ノ被服物品中ヨリ左ノ標準ニ依リ無償交付(交付證ニヨル)シ若支ナキコトニ定メラル。

衣 袴 (夏衣袴、軍衣袴又ハ略衣袴) 一組

帽 子 (軍帽又ハ略帽) 一個

靴 (半靴、編上靴又ハ略靴) 一組

襪 袴 (夏用又ハ冬用) 一個

袴 下 (同) 右) 一個

手拭、襪、カラト、靴下

現ニ貸與中ノモノ全部

二復經主第百號ノ八八

昭和二十一年十一月十九日

1324

復員廳第二復員局經理部長  
各地方復員局經理部長殿

計理士登録申請ニ關スル件通知

海軍經理學校生徒教程卒業者ハ計理士法第三條第三號ニヨリ計理士タルノ資格ヲ有スルガ、ソノ登録申請ハ左記ニヨルコトトナツテキルカラ關係ノ向ニ周知方取計ハレタイ。

登録申請書ノ様式(用紙美濃紙)

計理士登録申請書

収入印紙  
貳拾圓貼  
付(但シ  
消印セズ  
コト)

本籍 何道府縣何郡市町村何番地  
住所 何道府縣何郡市町村何番地  
事務所 何道府縣何郡市町村何番地

名

年 月 日生

年 月 日

右

大藏大臣 氏 名宛

氏

名

私依計理士登録相受度別紙資格證明書相添此段申請候也

注意(一)申請書記載ノ本籍、住所、事務所及氏名ハ楷書ニテ正確ニ記載ノコト。

(二)申請書ヲ郵送スル場合ニハ書留郵便ニヨルコト。

(三)履歷書記載ノ氏名ニハ振假名ヲ附スルコト。  
資格證明書トシテ提出スヘキ書類

(一)履歷書(中學校程度ヨリノ學歷、職歴並ビニ現職ノ有無ソノ他詳細ニ記載ノコト)

(二)計理士法第二條第一項第一號(所謂私法上ノ能力者)ニ該當スル旨及ビ第四條第一號乃至第三號ニ該當セザル旨ノ市區町村長ノ證明書

(三)海軍經理學校生徒教程卒業證明書(第二復員局大事)ニテ發行スル

(四)現職ノ官吏ハ本局長官ノ許可書ヲ添付スルコト。

(參照條文)

計理士法抜萃

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ計理士タル資格ヲ有ス

一 帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二 計理士試験ニ合格シタルコト

計理士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス計理士タル資格ヲ有ス

一 會計學ヲ修メタル經濟學博士又ハ商學博士

二 帝國大學又ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ會計學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ專門學校令ニ依ル專門學校ニ於テ會計學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

三 主務大臣ニ於テ前號ニ掲グル學校ト同等以上ト認ムル學

1325

校ニ於テ會計學ヲ修メテ卒業シタル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ計理士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未満ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ヲ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一年未満ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十一條又ハ第十二條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 破産者ニシテ復権ヲ得サル者

四 計理士ノ業務ノ停止ノ期間中其ノ業務ヲ廢止シ來タ其ノ期間ノ經過セサル者

五 計理士ノ業務ノ禁止ノ處分ヲ受ケタル者但シ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於テ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 計理士又ハ計理士タリシ者故ナク其ノ業務上取扱ヒタル事項ニ付知得タル秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 計理士タル資格ヲ有セスシテ計理士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス。

復員廳第二復員局公報 第五九號 昭和二十一年十一月二十日

<p>○難 款</p> <p>○郵便物發送先</p> <p>特別輸送艦 萩 横須賀市浦賀町</p> <p>同 初 梅 横須賀市福石町</p> <p>掃海母艦 新 南 佐世保市福部氣付</p> <p>舞鶴市余部舞鶴掃海部氣付</p>	
<p>○殘務整理</p> <p>十一月一日開始 特別輸送艦第二〇號殘務整理班</p> <p>吳市山手町吳運航部氣付</p>	
<p>○轉官</p> <p>四月十五日 大藏事務官ニ轉官 海軍司政官 高橋兵太郎</p> <p>同 外務技官ニ轉官 海軍技手 野寺 梅吉</p> <p>五月十五日 地方技官ニ轉官 海軍書記 飯村 清</p> <p>同 地方事務官ニ轉官 同 尾畠 幸重</p> <p>五月十八日 地方技官ニ轉官 海軍技手 磯部 禮司</p> <p>六月十五日 地方事務官ニ轉官 海軍書記 八幡 彦一</p> <p>同 同 海軍書記 松永啓太郎</p> <p>同 同 同 田中 俊雄</p> <p>同 同 同 服部 幾太</p> <p>同 同 同 村井 勝</p> <p>同 同 同 加藤 勇</p>	

1326

一五七



# 復員廳第二復員局公報

第六〇號

昭和二十一年十一月二十二日(金)  
第二復員局文書課

〇令 達

復二第四〇一號

雇員備人給與規則中次ノヤウニ改正スル。

昭和二十一年十一月二十二日

復員廳 總裁

「雇員備人給與規則」ヲ「第二復員部内雇員備人給與規則」ニ改メル。

第一條 雇員備人ノ給料ハ第一表及第二表ニヨル。

第二條中「徴兵検査又ハ簡閉點呼ニ參會ノ當日並」ヲ削ル。

第四條及第七條ノ二ヲ削ル。

第五條中「文官」ヲ「官吏」ニ、「艦船部隊」ヲ「艦船」ニ改メ同條ヲ第四條トスル。

第五條 給料ハ左ノ區分ニヨリ之ヲ支給ス。

一 雇員備人長ニ新ニ採用(部内ニ於テ轉雇、轉備ノ場合ヲ含ム)ノトキ又ハ月給ノ増給若ハ減給ノトキハ辭令ノ日ノ翌日ヨリ。

二 備人(備人長ヲ除ク)ニ新ニ採用(部内ニ於テ轉雇、轉備ノ場合ヲ含ム)ノトキ又ハ月給ノ増給又ハ減給ノトキハ辭令ノ日ヨリ

三 官吏ニ任用ノトキハ辭令ノ日迄、轉雇、轉備ノトキハ月給ノ者ニ在リテハ辭令ノ日迄、日給者ニ在リテハ辭令ノ前日迄

四 雇員及備人長ノ退職ノトキ又ハ死亡ノトキハ其ノ月ノ全額、備人(備人長ヲ除ク)退職又ハ死亡ノトキハ其ノ日迄但シ公務ニ起因シタル傷痍疾病ノ爲解備ノトキ又ハ其ノ死亡公務ニ起因スルトキハ其ノ月分ノ全額

第六條 日給ノ備人ヲ雇員ニ轉職スルトキハ日給ノ三十倍ニ相當スル金額ヲ月額トシ月給ノ雇員(備人長ヲ含ム)ヲ自給ノ備人ニ轉職スルトキハ月給ノ三十分ノ一ニ相當スル金額ヲ日給トスルコトヲ得但シ其ノ金額ニシテ第一表又ハ第二表ニ相當スル金額ヲキトキハ其ノ直近上位ノ號給ヲ其ノ月給又ハ日給トナスコトヲ得

第七條 所轄長ハ六月以上勤績ノ者ニツキ左ノ昇給年限ニ達シタトキハ豫算ノ範圍内ニ於テ毎年六月、九月、十二月及翌年三月ノ四回第一表及第二表ニヨリ増給スルコトヲ得

- 一 十三號ニ達スルマデハ毎號ニツキ 六月以上
- 二 二十三號ニ達スルマデハ毎號ニツキ 九月以上
- 三 三十五號ニ達スルマデハ毎號ニツキ 一年以上
- 四 三十五號ヲ超ユルモノハ毎號ニツキ 一年以上

復員廳第二復員局公報 第六〇號 昭和二十一年十一月二十二日

一五九

1328

第八條 所轄長ハ雇員備人危篤ニ陥リ又ハ退職シタルトキハ其ノ際功績特ニ顯著ナ者又ハ特別ノ事由アル者ニツキ前條ノ規定ニ拘ラズ所屬ノ長ノ認許ヲ受ケ第一表又ハ第二表ノ直近上位ノ給料マデ増給スルコトヲ得

第九條ノ二、第十一條乃至第十四條ヲ削ル。

第十條、第四條、第五條及ビ第九條ノ規定ハ囑託者ノ報酬金ノ支給ニツキ之ヲ準用スル。

第一表乃至第四表ヲ削ル。

附則

本則ハ昭和二十一年七月一日以後ノ給與ニツキコレヲ適用スル。

本則適用ノ際既ニ退職シタ者ノ給與ハ前項ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニヨル。

左ノ令達ハコレヲ廢止スル。

明治四十四年達第百三十六號

昭和十五年官房第一六四六號

本則適用ノ際現ニ外地又ハ外國ニアル軍屬タル雇員備人及ビ囑託者ニハ從前ノ規定ヲ適用スル。

(別紙添)

○雜 款

○郵便物發送先

特別輸送艦 海第七八號 佐世保郵便局氣付

○轉官

同	三月十八日	大藏事務官ニ轉官	海軍書記	小野 春雄
同	三月三十一日	地方教官ニ轉官	海軍教員	五十嵐東吉
同	四月十五日	地方事務官ニ轉官	海軍書記	三浦 弥一
同	同	同	海軍警部	高橋益之丞
同	同	通信技官ニ轉官	海軍技手	鶴飼 一郎
同	同	檢事ニ轉官	海軍司政官	服部 光行
同	同	農林技官ニ轉官	海軍技手	西村 武雄
同	五月十五日	地方事務官ニ轉官	海軍書記	岡師 爲信
同	同	同	同	原田 勝實
同	五月十八日	運輸事務官ニ轉官	同	飯田 勝雄
同	六月十四日	地方技官ニ轉官	海軍技手	岸本 健次
同	六月十五日	地方事務官ニ轉官	海軍司政官	埴之内一登
同	同	同	海軍書記	百瀬 一美
同	同	同	同	松尾 勝美
同	同	同	同	小寺 秀雄
同	同	同	同	島田 靜夫
同	同	同	同	堀江 太郎
同	同	同	同	木吉 大治
同	同	同	同	村上 芳
同	同	同	同	村上 鈴一
同	同	同	同	日高 信一
同	同	同	同	佐野 一雄







(復「第四〇」號別紙)

第一表 雇員及傭人長給料

(昭和二十一年十一月二十二日復員總第二復員局公報)

一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	號給	給	額	號給	給	額	號給	給	額	
二二〇	二二〇	二〇〇	一九〇	一八〇	一七〇	一六〇	一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	
一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	號給	給	額	號給	給	額	號給	給	額	
二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇
四二〇	四〇〇	三八〇	三六〇	三四〇	三二〇	三〇〇	二八〇	二六〇	二四〇	二二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇
三三	三一	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
七七〇	七三〇	六九〇	六五〇	六二〇	五九〇	五六〇	五三〇	五〇〇	四七〇	四四〇	七七〇	七七〇	七七〇	七七〇	七七〇	七七〇	七七〇	七七〇	七七〇	七七〇
		四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	號給	給	額	號給	給	額	號給	給	額	
		一一、二〇〇	一一、一五〇	一一、一〇〇	一〇、五〇	一〇、〇〇	九五〇	九〇〇	八五〇	八一〇										

1332

(復二第四〇一號別紙)

(昭和二十一年十一月二十二日復員廳第二復員局公報)

第二表 傭人(傭人長ヲ除ク) 給料

號給	給	額	號給	給	額	號給	給	額	號給	給	額
一二		九、五〇	二四		一九、〇〇	三六		三一、〇〇			
一一		九、〇〇	二三		一八、〇〇	三五		三〇、〇〇			
一〇		八、五〇	二二		一七、二〇	三四		二九、〇〇			
九		八、〇〇	二一		一六、四〇	三三		二八、〇〇	四五		四〇、〇〇
八		七、五〇	二〇		一五、六〇	三二		二七、〇〇	四四		三九、〇〇
七		七、〇〇	一九		一四、八〇	三一		二六、〇〇	四三		三八、〇〇
六		六、五〇	一八		一四、〇〇	三〇		二五、〇〇	四二		三七、〇〇
五		六、〇〇	一七		一三、二〇	二九		二四、〇〇	四一		三六、〇〇
四		五、五〇	一六		一二、四〇	二八		二三、〇〇	四〇		三五、〇〇
三		五、〇〇	一五		一一、六〇	二七		二二、〇〇	三九		三四、〇〇
二		四、五〇	一四		一〇、八〇	二六		二一、〇〇	三八		三三、〇〇
一		四、〇〇	一三		一〇、〇〇	二五		二〇、〇〇	三七		三二、〇〇

# 復員廳第二復員局公報

第六一號

昭和二十一年十一月二十五日(月)  
第二復員局文書課

## ○通牒

復二第四〇〇號

昭和二十一年十一月十八日

復員廳第二復員局長

關係各廳長殿

糧食品給與額中一部改正ニ關スル件通牒

昭和二十年十二月一日官房需第二號別表第一、第二及ビ昭和二十一年三月六日官房需第八號中次ノ様ニ改正シ昭和二十一年十一月二十一日以後ノ給與ニ就テ之ヲ適用スルコトニ定メル。

記

一 官房需第二號別表第一ノ中植物油ノ項(一)及ビ(二)ノ欄ヲ左ノ通り改正スル。

植 物 油	〇・〇〇八立	〇・〇〇八立
-------	--------	--------

二 官房需第二號別表第二ノ中左ノ通り改正スル。

(イ) (麥)ノ項換給品種量額ノ欄生馬鈴薯ノ次ニ左ノ通り加ヘル。

生 パ ン	五四〇瓦 (三四〇瓦)
-------	----------------

(ロ) 味噌ノ項換給品種量額ノ欄ヲ次ノ通り改正スル。

乾燥味噌	一三五
------	-----

(ハ) 植物油ノ項量額ノ欄ヲ次ノ通り改正スル。

植 物 油	〇・〇〇八立
-------	--------

(ニ) 酢ノ項換給品種量額ノ欄ヲ次ノ通り改正スル。

植 物 油	〇・〇〇八立
-------	--------

(ホ) 火酒ノ項換給品種量額日本酒ノ次ニ左ノ通り加ヘル。

果 實 酒	〇・一四立
-------	-------

三 官房需第八號中記事欄ヲ左ノ通り改正スル。

艦船ノ乗組員ニシテ保健上必要アルトキニ限ル

(參照) 昭和二十年官房需第二號  
昭和二十年十二月十四日第二復員省公報第七號  
昭和二十一年官房需第八號  
昭和二十一年三月七日第二復員省公報第五〇號

## ○雜 款

復員廳第二復員局公報 第六一號 昭和二十一年十一月二十五日

一六三

1334

○郵便物發送先

特別輸送艦 栗 島 吳市下山手町吳艦航部氣付  
 同 海第二七號 吳市下山手町吳地方復員局氣付

○轉官

五月十五日	地方事務官ニ轉官	海軍書記	室 和夫
六月十五日	同	同	大高 勇一
同	同	海軍警部	小城 誠藏
同	地方技官ニ轉官	海軍技手	芦田 保
同	遞信事務官ニ轉官	同	松本政次郎
同	大藏事務官ニ轉官	海軍書記	吉岡 靖善
七月十五日	地方事務官ニ轉官	海軍司政官	河原市太郎
同	同	海軍警部	水野 護
同	地方技官ニ轉官	海軍技手	新田見一義
同	同	同	首藤 作一
同	農林技官ニ轉官	海軍技師	小竹 康三
同	商工事務官ニ轉官	海軍司政官	磯長 昌利
同	同	同	須藤 末吉
同	大藏事務官ニ轉官	海軍書記	平井 英男
十月三十日	同	第二復員事務官	佐々木武夫

整理  
支文

# 復員廳第二復員局公報

第六二號

昭和二十一年十一月二十九日(金)  
第二復員局文書課

## ○令 達

復二第四〇七號

元軍艦 鹿 島

右ヲ特別輸送艦トシテ吳地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十一年十一月二十六日

復員廳總裁

## ○通 牒

二復入扶第四號

昭和二十一年十一月二十八日

各廳長殿 復員廳第二復員局人事部長

## 恩給關係規定ノ件通牒

執務上必要ト認メルノデ恩給關係規定デ本年一月以降發令セラレタ事項ノ摘要ヲ別紙ノ通トリマトメテ通牒スル。

## (別紙)

昭和二十一年恩給關係規定改廢事項摘要

一 恩給法ノ特例ニ關スル件(昭和二十一年一月三十一日公布勅令第六十八號、六月五日公布勅令第三百四號改正)

復員廳第二復員局公報 第六二號 昭和二十一年十一月二十九日

一六五

接  
事務  
23

- 軍人、軍屬(軍屬中特定ノ者ヲ除ク)ノ恩給、扶助料ハ傷病恩給ヲ除キ廢止サレタ。傷病恩給ハ次ノ要領ヲ給セラレル。
- (イ) 六項症以上ノ症狀ノ者ニハ普通恩給ヲ伴ハナイ特定ノ増加恩給ヲ給スル。
- (ロ) 従來年金デアツク増加恩給ノ七項症及傷病年金ハ傷病賜金(一時金)ニナツク。
- (ハ) 傷病賜金(下士官、兵ニ限リ支給)中三、四日症(輕症狀ノモノ)ハ廢サレタ。
- (備考) 昭和二十年十二月以後ノ復員省、復員廳ノ文官ニハ勅令第六十八號ノ適用ハナイ。従ツテ各省一般文官ト同様、恩給法全部方適用セラレル。
- 二 昭和二十一年四月ノ俸給令改正トノ關係
- 四月改正ノ俸給ニヨツテ恩給ヲ受ケル者ニ對シテハ新俸給ヲ一應三月末日ニ於ケル俸給令ニヨツテ給セラレタルモノト見テ取扱ヒ昭和六年ノ俸給令改正前ノ額ニ還元シタ額ヲ恩給算定ノ基礎トスル(内閣恩給局決定取扱)
- 三 恩給法ノ一部改正(九月三十日公布法律第三十一號)
  - (イ) 官更任用敍級規定改正ニ伴フ規定整理
  - (ロ) 戰爭又ハ軍隊ノ存在ヲ前提トスル規定ノ整理
  - (ハ) 朝鮮、臺灣等外地特殊關係規定ノ整理

1336

四 恩給法施行令ノ一部改正（九月三十日公布勅令第四百四十八號）

昭和十七年四月ヨリ停止サレテ居タ恩給受給權調査ヲ本年十月カラ次ノ如ク實施スル。

(イ) 普通恩給、増加恩給、傷病年金受給者ハ昭和ノ奇數年ノ十月

(ロ) 扶助料受給者ハ昭和ノ偶數年ノ四月  
受給者ハ右該當年月ニ恩給受給權調査票ニ本人ノ場合ニハ戶籍抄本又ハ戶籍記載事項證明書ヲ、遺族ノ場合ニハ戶籍謄本ヲ添ヘ支給郵便局ヲ經由シテ内閣恩給局（其ノ他ノ裁定廳）ニ提出シナケレバナラナイ。

五 恩給法臨時特例（十月十五日公布法律第三十六號）

(イ) 七月ノ俸給令改正ニ拘ラズ恩給額ハ(ロ)ノ外増額セラレナイ、恩給額ハ俸給令改正前ノ受給者ト概ネ均衡ヲ保ツコトヲ目送トシテ定メラレタ假定俸給ニヨツテ算定セラレル。

昭和二十一年七月一日カラ同二十二年六月三十日マデニ退職シタ者ニツイテハ退職一年前ノ俸給ヲ昭和六年ノ俸給令改正前ノ額ニ還元シタ額ニ相當スル恩給法臨時特例別表ノ假定俸給（相當スル假定俸給ノナイ場合ニハソノ直近上位ノ假定俸給）ニ對應スル額ノ俸給ヲ退職一年前カラ受ケテキタモノト假定シテ計算スル但シ昭和二十一年六月三十日以前ニオイテ既ニ恩給法第五十九條ノ二第一項各號ノ制限ヲ超ヘテ昇給シタモノニツイテハコノ限りデナイ（内閣恩

給局取扱決定）

(ロ) 公務傷病ニヨル恩給、扶助料ハ從來ノ額ノ三十五割ニ相當スル額ニ増額サレタ。六月以前ニ退職（死亡）シタ者ニ對シテハ七月カラ從來ノ額ノ三十五割ヲ支給スル（受給者ノ請求ヲ待タズ改定セラレル）  
（備考） 勅令第六十八號ニヨツテ給セラレル軍人、軍屬ノ増加恩給ハ含マナイ。

(ハ) 國庫納金ノ率ハ從來ノ百分ノ二ノ二百分ノ一トスル。  
(ニ) 年額千圓以上ノ普通恩給ヲ受クル者恩給外ノ所得一萬圓（從來四千圓）ヲ超ユル場合ハ其ノ合計額ヲ超ユル部分ノ三割以內ヲ停止スル但シ恩給ノ支給額ハ千圓ヲ下ルコトハナイ。

六 恩給法施行令ノ一部改正（九月三十一日公布勅令第五百四號）

恩給法ノ一部改正（法律第三十一號）ニ伴フモノ。

七 恩給法臨時特例施行令（十一月七日公布勅令第五百二十四號）

昭和二十一年七月一日現在内地外ニアル官吏ノ俸給ハ七月ノ俸給令改正ニカカハラズ内地歸還マデ改正前ノ額ヲ給セラレルコトニナツテキル（勅令第四三五號官吏俸給令ノ一部改正附則第四項）ガ本令ハ主トシテ其ノ者ニ恩給法臨時特例ヲ適用スル場合ノ取扱ヲ規定シタモノデアツテ其ノ要旨ハ次ノ通デアル。

(イ) 國庫納金ニツイテハ六月三十日ニオイテ現ニ受ケタ俸給ノ額ノ四十割(國民學校級ノ教育職員及警察監獄職員ニツイテハ二十割)ニ相當スル額ヲ七月以後ノ俸給ノ額トミナス。

(ロ) 普通恩給(扶助料ノ額ハ普通恩給ノ額ニヨツテ算定セラレル)、一時恩給、一時扶助料ノ基礎トナル俸給額ニツイテハ六月三十日ニオイテ現ニ受ケタ俸給ノ月額百分ノ百三十(公務傷病ノタメ退職又ハ死亡シタ者ニツイテハ百分ノ百四十五)ニ相當スル額ヲ假定俸給月額トスル。

二復人扶第四號ノ二

昭和二十一年十一月二十八日

復員廳第二復員局人事部長

關係各廳長殿

恩給扶助料關係ノ應答ニ關スル件通知

恩給扶助料ニ關スル個人的ノ問合セニ對シ當方ニオイテハ一般的ノモノニツイテハ左記ノ要旨ヲ回答シテホルカラ御了知願ヒタイ。

記

軍人ノ恩給扶助料方廢サレテ後政府ニ於テハ御遺族ヤ高齡者ノ保護ニツイテ種々審議セラレマシタガ遺憾ナガラ實現ヲ見ルニ至リマセンデシタ。

今年ノ臨時議會デ生活保護法方制定セラレ十月一日カラ施行サ

レテ居リマス。

此ノ法律ハ以前ノ救護法ノ様ナ恩惠的ナモノデハナク國ガソノ責任トシテ國民ノ最低生活ヲ保障シヨウトスルモノデアツテ保護ヲ受ケタカラト言ツテ法規的ニ差別サレルヨウナコトノナイノハ勿論スベテノ點ニ於テ自身ノセマイ思ヒヲシタリ、サセタリシテハナラヌト言フ趣旨ヲ制定サレ居リマス。

終戦後ノ特殊ナ事情カラ生活困難ノ實情ニアル多數ノ人達ハ皆コノ法律ニヨツテ保護ヲウケルコトガ出来マスカラ遺族ヤ高齡者又ハ健康デナイタメニ事實上生活困難ノ狀況ニアル場合ニハ元ノ官職上ノ地位ヤ生活振リニコダワラナイデ保護ヲウケラレルヨウオス、メ致シマス。

生活保護法ニヨル保護ハ(一)生活扶助(一定額ノ金錢又ハ物品)(二)醫療助産(無料)(三)生業扶助(一定額ノ資金貸與等)(四)葬祭扶助(一定額ノ金錢)ノ種別ガアリ現住地ノ市區町村長ガ一定範圍内デ世帯ノ實情ヤ現住地ノ實情ナドニヨツテ保護ノ程度ヲ定メテ直チニ實行スルコトニナツテ居リマスカラ遠慮ナク現住地ノ市區町村長又ハ擔當ノ民生委員ニ申出デラレルヨウニ致シタイト思ヒマス。

○ 雜 談

○ 事務所

十一月六日移轉

熊本地方世話部第二復員課

熊本市千葉城町一番地 電話(五二二六番)

(五二二七番)

復員廳第二復員局公報 第六二號

昭和二十一年十一月二十九日

一六七



○郵便物發送先

特別輸送艦 海第八一號 鹿兒島市住吉町海岸通  
鹿兒島運航部氣付

同 海第一四二號 佐世保市福石町  
佐世保運航部氣付

同 海第一五〇號 同

○轉官

十一月十五日 内閣事務官ニ轉官 復員事務官 嶋田 修治

○正誤

十一月二十日附復員廳第二復員局公報通牒欄第一五五頁二復  
經主第七號ノ一二九第三一番電中「艦船乗員解員者ノ取扱者  
ニ關スル件」ハ「艦船乗員解員者ノ取扱ニ關スル件」ノ誤